

## アデレードでの国際YLミーティングに参加して

JR3MVF 三好京子



Barossa地方

2012年5月3日より9日までの7日間、11回目の国際YLミーティングが南オーストラリアのアデレードで開催されました。10カ国約70名の参加者は盛大に予定を無事に終了し再会を約束して、オプションツアーに出かける人々、キャラバンに乗って数千キロを走る人、空港に向かう人など、楽しかった思い出をもってそれぞれが家路につきました。

Ms. Tina (VK5TMC) を中心に数名の主催者が運営の中心におり、Adelaide Hill Radio Clubをはじめ多くのYL、OMがサポートしていました。広いオーストラリアを今回ほど認識させられたことはありませんでした。参加者の10名余りはキャラバンで数千キロの遠くから数日をかけて、参加していました。もちろんヨーロッパやアメリカからの参加者等遠距離からの参加者もあり、お互いの交通手段だけでも話が盛り上がり、楽しい時間が過ぎていきました。宿泊所は2箇所のホテルと広大なキャラバンパークでした。その間をミバスがメイン会場への足としてイベントをサポートしていました。今回の予定は次の通りでした。

### 5月3日(木)

朝7時過ぎアデレード空港で海外からの参加者数名と一緒に主催者Tinaの出迎えを受ける。到着したホテルでは既に参加者同士の再会を喜ぶ姿が見られた。私もデンマークからご夫婦で参加し、数日間レンタカーで大陸を旅してきたインガー (OZ7AGR) 等と数年振りの再会を楽しんだ。夜は三々五々、到着した参加者が集まりよいよミーティングが始まった。



Cleland Wildlife Park

### 5月4日(金)

9時に出発し710mのアデレードで一番高い山(Mt. Lofty)から、ワイドビューにアデレード市内を見ることが出来た。その後Cleland Wildlife Parkでコアラ、カンガルーなどオーストラリアに生息する多くの動物や美しい鳥達を見て楽しんだ。ちょうど訪れていた幼稚園児ともつかの間の国際交流を持つことができた。午後はアデレード丘にある歴史的な村を訪れ、美味しい昼食をとった。帰途、ストロベリーファームを立ち寄り、5時頃ホテルに着いた。



コアラを見に来た園児



Cleland Wildlife Park



5月5日(土)

9時半 コンファレンス スタート

各国からのレポートやアナウンスがあり 手作りのクッキー等での  
コーヒータイムを挟んで和気藹々の会議が12時まで開催された。  
その間OM達はETSA Museumを訪れていた。

12時からホテルの前に広がる芝生で記念写真を撮り その後皆  
で昼食をとった。

午後はバスで半日の市内ツアーを楽しんだ後、7時から市内のゲ  
ストを招いての食事会とゲストスピーカーの話があり 三日目が過ぎた。

5月7日(月)

ワイナリー とWhispering Wall(ダム)への一日ツアー

8時30分にホテルを出発して、北に位置する目的地を目指した。  
郊外に出るとまっすぐに伸びる広い道路を約1時間半走って目的  
地のダムに到着。そこでVKの人たちが面白い行動をとった。大き  
なダムの壁の端で何も持たずに "CQ CQ" とコールし出した。する  
と返事が返ってきた。最初なにが起こっているのかわからなかつた  
が、見ていると反対側の壁の端で同じようにCQに答えている人が  
あった。大きなダムの壁を伝って声が返ってきていたのだ！  
ダムでのきれいな空気をいっぱい吸って、いよいよBarossa Valley  
に向かう

最初に訪れたのは1890年に創立されたオーストラリアで一番古  
いChateau Tanundaだった。たくさんのチーズや美味しいおつまみ  
と共にたくさんのワインを試飲し、アンケートに答えることとなった。  
次のワイナリーは150年以上の歴史を持つSaltramで、膨大な大  
小の樽に眠っているワインを見ることができた。ここでも多くのワイ  
ンの試飲をして、皆、かなりテンションが上がっていたようだ。最後  
のワイナリーはChateau Yaldaraだった。少し小さなワイン醸造所  
だったが、昔のお城の面影を残しており、その一角のレストランで  
グラスワインを片手に昼食を取った。半日間ワイン漬けだったので、  
夜は皆ぐっすり良く眠れたようだ。



コンファレンス会場



QSO出来た!



一番古いシャドウにて



ETSA Museum



Railway Museum



Gala Party

5月8日(火)

今日は一日フリーなので、トラムに乗って郊外の大きなショッピングセンターに出かけ、帰りにはアデレードの繁華街で買物やミュージアム等思い思いの時間を過ごした。

夜7時からGalaパーティーが開催され、華やかな民族衣装に包まれてお国自慢の芸が披露され楽しい時間があっという間に過ぎていった。

5月9日(水)

別れの朝。快晴!

9日間のオプションツアーに出かける人々のバスがホテル前に着き、またどこかで会いましょう! の言葉が飛び交い、いよいよ別れの時が来た。一瞬皆の脳裏には楽しかった思い出が蘇ったようだが、すでに前を向いているように感じた。

最後に。

何度かYLミーティングに参加して感じたことは、主催者は何処でも強いパワーと

ボランティア精神に溢れ、参加者に喜んでもらうために細心の準備をしている。

それでもいろいろな問題が出てくる中で、周りの強いバックアップを受けながらそれを解決していく姿はいつも素晴らしいなあと感じる。

今回とてもよく考えられていると思ったのは、全員を4つのグループに分け、2台のバスの乗車日によってうまく配分し、出来だけ多くの人と話ができるように配慮されていた事だった。

1991年にストックホルムで第一回のミーティングがスタートし、1993年には大阪国際交流センターハムクラブの皆さんの協力で第二回目のYLミーティングを大阪で開催出来たことは、振り返ると本当に素晴らしい事だったとつくづく思います。今回でこのミーティングも11回目を迎えましたが、高齢化の波は確実にここにも押し寄せてきています。常連と言われたYLさんの不参加が顕著になり、今回のミーティングの中で次回のミーティングのアナウンスがなされませんでした。このミーティングにはリーダーがいなく、本当に自然発生的に次回開催国が決まっていたのですが、20年余の時の流れは大きいなあと思います。このミーティングがきっかけとなりスカンジナビアでYLクラブが結成され、YL-DXペディションのグループが出来、国際友好の輪が大きく広がったこと等は、世界のYLハムの中でこのミーティングが大きな足跡をしっかりと残したと思われまます。

近いうちに又国際YLミーティングが開かれるのを切に願っています。73&88



Gala Partyにて



樽樽樽...



市内を望む



参加者全員



主催者

## 「金魚の糞」 2012年版

## 後編

XT 2IVU 北井 十生 JA3IVU

3月24日

この日はブルキナファソアマチュア無線連盟 (ARBF) 会長 XT2 HB Hugolinn Poodaさんの故郷であるボボ・ディラソ (首都ワガドゥグから西へ約 300km) へ出かけた。



(Poodaさんの車 トヨタ ランクル アンテナは18MHz用)

Poodaさんの自宅へ行き、車 (トヨタ ランクル) にアンテナと無線機 (IC706) を取り付けた。この日から WPX SSB CONTEST が開催されているため持参した車載用アンテナ (ダイヤモンド社製モノバンドセンターローディング 7、14、18MH 帯用) の中から 18MH 帯で運用することにした。もちろん 7、14MHz アンテナの調整を行った。

ワガドゥグ市内走行中は CEFIG で運用中の中野さん (XT2VWT) と 18MH z で QSO を行い、毎時 0分と 30分の定時に QSO をすることにした。ところが 30分も走るとサバンナの真ん中で中野さん (XT2VWT) の電波は取れなくなってしまった。それから XT2AEF 東條さんが何回も CQ を出すがだれも答えてくれない。

ある湖のそばに来たとき Eu の局が呼んでくれた。やっぱり湿地のそばはよく飛ぶのかと感心した。(理屈のとおりでした。)



(サバンナの中を走る)

それからはパイルアップが続く。OP を交代して XT2HB Pooda さん、XT2IVU 北井がオペレートした。

おそらく「ブルキナファソ」からモバイル移動局の運用は初めてではないかと思われる。この短い (長さ約 2m) アンテナでよく飛ぶものだ。Eu はもちろん、Na、Sa の局も 59 で入感する。村があっても電気がない村があるので人工雑音がない。西アフリカから見ると Na、Sa も大西洋の向こう側で近いですから、つい日本からと勘違いをしそうです。残念ながら JA とはできなかったと思います。西へ進むに従って緑が多くなってきた。道路は一部未舗装があったがほとんど舗装されていた。通行車両も少なく、乗り合いバスには屋根の上まで人、荷物を乗せて走っている。また、町 (集落) と町の間はなにもなく道路の両側は少しの草木が生えた原っぱが延々と広々と続く。あれ「ゾウに注意」の看板が・・・Pooda さんに聞くとゾウがエサを求めて道路を横断すること。

ゾウに当たったらいへんですが今の時期は乾季でいないそうです。

11時にワガドゥグを出発しボボ・ディラソの Pooda さんの実家に到着したのは夕方の 18時ころだった。

家の中を案内していただいた。まだ外観は完成しているが内装がまだ出来ていない。部屋もたくさんある。裏庭にはプールだという魚の形をした「穴」があった……。前庭には 15m ほどの 2 段のクラクアップ式のタワーに 3 エレトライバンド 8 木らしい。エレメントが 1 本ない。実家はボボ・ディラソ郊外の高台にあるのでアンテナを整備すればよく飛びそう。

11時にワガドゥグを出発しボボ・ディラソの Pooda さんの実家に到着したのは夕方の 18時ころだった。

家の中を案内していただいた。まだ外観は完成しているが内装がまだ出来ていない。部屋もたくさんある。裏庭にはプールだという魚の形をした「穴」があった……。前庭には 15m ほどの 2 段のクラクアップ式のタワーに 3 エレトライバンド 8 木らしい。エレメントが 1 本ない。実家はボボ・ディラソ郊外の高台にあるのでアンテナを整備すればよく飛びそう。



(BoboのPoodaさんの実家 アンテナは3エレですが・・・)

また、完成すれば 20人は裕に泊まれそう

ボボ・ディラソはブルキナファソ第二の都市で人口約 43万人 緑の多い街でワガドゥグに比べると少し蒸し暑い。早速、市内中心部のホテルへ。2階のシングルルームへ。エアコン (LG 製) テレビ (三洋製) シャワーもある。

Pooda さん、東條さんと 3人で近くのレストランへ。なんと、ちよっと遅いが W-LAN でネットにつながる。

DX クラスタを見ると XT 2 がたくさん上がっている。

一方、ワガドゥグに残った、学生さんたち 3人の尾崎さん (XT2CZE) 谷村さん (XT2CXW) 品川さん (XT2DCS) は、「ワニ園」マンガ博物館 (マンガの博物館ではなく民族博物館です。) へ。

「ワニ園」にオリなどはなく日本ではとてもできないワニを手で触れ合うことができ、生きた鶏をエサとして与えるアトラクションまであったそうです。東條さん (XT2AEF) と北井 (XT2IVU) がいないので、中野さん (XT2VWT) はひとりで CEFIG に残り FT 897 で無線三昧したそうです。

3月25日朝、ホテル近くを散歩すると古いモスクがあった。写真を撮ってもいいかと聞くと管理事務所のようなところへ連れていかれ料金を払った。モスクの中と屋上にも上がった。(XT2IVU の QSL CARD にしている) イスラムのモスクらしく祭壇のようなものはない。

ハリネズミのような塔はミナレットで先の方まで上られる。外に出ている木はその階段の支えとのこと。

中は薄暗く、数人の人がお祈りの最中。このモスクの近くに土で作った昔ながらの生活をしているオールドタウンがあるのでモスクを案内してくれた人に同行してもらった。お祭りのようでごちそうの準備をしていた。観光客は私たち以外にもいた。ワガドゥグには観光するところはないがボボ・ディラソには観光客が来るとのこと。

交信局数 (各局別 entity毎、バンド毎など)

XT2AEF			
Mode: SSB			
entity	contacts	entity	contacts
JA	191	4X	3
I	93	TK	3
W	70	YB	3
EA	48	HA	3
UA-Eu	41	LX	2
DJ	32	UO	2
SP	24	9K	2
UAEu	22	KP4	2
F	21	OM	2
UAs	16	BV	2
G	15	YV	2
YO	12	5B4	2
VE	12	7X	2
CT	11	A8	1
ON	11	9H	1
OE	11	LY	1
OK	10	IS	1
PY	10	FM	1
OH	9	CU7	1
GW	7	DU	1
HE9	7	GI	1
SV	6	CE	1
A6	6	BY	1
9A	6	JY	1
EI	5	VK	1
SM	5	9Y	1
YU	5	PZ	1
OZ	5	LA	1
S5	5	CO	1
EA8	5	E7	1
EA6	4	HZ	1
PA	4	VP2E	1
HM	4	UK	1
LU	4	HS	1
YL	3	EW	1
GM	3		

XT2IVU			
Mode: RTTY			
entity	contacts	entity	contacts
Eu		As	
DL	22	JA	6
G	6	UA	2
GI	1		
EA	7		
F	12	AF	
HA	4	ZS	1
I	21	V51	1
OH	4	EC8	1
OK	6		
ON	6		
PA	2	SA	
U	16	PY	3
S5	2		
SP	9	OC	
UT	11	KH6	1
YO	4		
SA	1		
OZ	1		
OM	1	J45	1
LA	1		
EI	1		
9A	1		
YT	1		

あれ…… Wがな い？

XT2IVU SSB		
Band	contacts	etc.
7M	3	
18M	1	
18M	8	Mobile

  

Call	contacts	Mode
XT2VWT	54	SSB
XT2CZE	54	SSB
XT2DCS	38	SSB
XT2CXW	82	SSB

mobile contacts	111
contacts as XT2CEFIG	151
XT2HB/M	12



(Bobo の オ ルド モスク)

Poodaさんにブルキナファソ唯一の世界遺産「ロロベニの遺跡群」まで行けるかと聞くとBoboからかなり遠いので今日中にワガドゥグに帰れないということでBoboから北へ30分ほど走ったある村の「青空市場」へ出かけた。

大勢の人が買い物に来ている。また、いろいろなものを売っている。Poodaさんはお米を買った。この市場のお米は美味しいとのこと。自然そのままのバナナとマンゴーを買って食べた。とても美味しい。またBoboにもどり、今度は西の方へ、川が流れ、子供たち泳いでいる。川の浅いところ(ヒザまでの深さ)をPoodaさんと東條さんは渡った。



(Bobo郊外の青空市場)



(砂漠の中にも川が流れている)

ここからワガドゥグへ向けて走ることとなる。当然、移動運用しながらとなるが昨日と違って応答率が悪い。

途中から陽も暮れ、電気がないから街灯などなく、サバンナの中、真っ暗な道路を車のライトだけで走る。未舗装の道になると前を走る砂煙でなにも見えないのでスピードが落ちる。20時ころワガドゥグのホテルに着いた。Poodaさん長時間の運転たいへんお疲れ様でした。(パリダカ気分が楽しめました。以前はこの北の方(数百km)がコースだったようです。杉山さんここへでは無線とオフロード走行の両方ができますよ。RANGE ROVERでいかがですか?)

この日は中野さんと学生さん3人の尾崎さん(XT2CZE)、谷村さん(XT2CXW)、品川さん(XT2DCS)はCEFIGでFT897で無線三昧、ところがリグを接続していたAC240Vのコンセントでショートが発生(ACアダプ

夕のショーが原因) CEFIG全学停電してしまったが直ぐに電気工事屋さんに来て修理し、おまけに回線の容量アップもしていただきましたそうです。(CEFIGのみなさんご迷惑をおかけしました。) 工事中の間は、FT897の内蔵バッテリーで20W運用しました。それでも18MHzでJAまで飛んでいます。(ただしJA1BKとJA4DNDですが・・・)

3月26日、今日は一日無線三昧 東條さん(XT2AEF)と北井(XT2IVU)、学生さんの尾崎さん(XT2CZE)、谷村さん(XT2CXW)、品川さん(XT2DCS)が交代して運用する。SSBはSIMP運用で、RTTYはスプリッド運用とした。また、RTTYも無線機をIC7000からIC7200+HL550FXに変え、リアアを付けた。

またまた、猛烈なパイルアップ。日本で4300のFMでのQSOしか経験ない3人ですが東條さん(XT2AEF)のそばについてお手伝い。最初はコールがなかなか取れなかったがしばらくするとパイルを裁いている。たいしたものです。

私の初QSOはマイクを持ってが震えてなににしゃべったのか記憶にありません。

まあ、3人も英語と少しのフランス語はできるそうですのでなんとかなるでしょう



CEFIG 屋上のアンテナ ミニマルチHX52A  
左から谷村さん 品川さん 東條さん)

猛パイルは日本では絶対に経験できないのでできるだけ多くのQSOをするようにと3人のためにQSOの時間を開けた。

IC7000にヤエスのFT-897用電源を接続していたが送信すると電源が落ちる(日本に帰って調べると接触不良で電圧降下を起こしていたようです。)ので電源をDM330MVに変えて運用しようとしたら電源ヒューズが飛ぶ。しまった「入力電圧をAC100Vから240Vに変えてなかった。二度と復活はしなかった。(中野さんスミマセン)

今夜も12時まで東條さんと北井がJA向けに運用することにしました。RTTYでさかんにCQJAを出すのがQRMでなかなか取れない。東條さん(XT2AEF)がSSBでJAを1から順にエリア毎に呼びかけるJA3のときに当クラブの山本さん(JA3PYC)、島さん(JA3AA)とも出来た。荒川さん(JA3AER)、杉山さん(JA3AOP)も呼んでおられたようですが取れませんでした。AsPcOcNaSaAfと指定してCQを出す。しばらくするとEuの各局から「まだかまだか」の催促があった。EuはいつでもQSOできるからしばらく待ってほしいと思いました。

夕方(日本では朝)から7MHzのSSBをワッチするとJAが59で入感しているので呼ぶがなかなかとってもらえない。そうするとEuの局からXTがJAを呼んでいるとのQSPしてくれたのでQSOができた。(これらの局も帰国して調べてみるとシングルバンドのビームを使用)この日も2人で24時まで運用した。

続いて、東條さん(XT2AEF)、学生さんの尾崎さん(XT2CZE)、谷村さん(XT2CXW)、品川さん(XT2DCS)が交代して運用する。またまたEuの猛パイルを受けながらも学生さんも慣れてきたようでQSOのペースが上がる。

夕方、ブルキナファソアマチュア無線連盟(ARBF)会長 XT2HB Hugolinn Poodaさんの自宅で夕食会を開いていただいた。そこにはブルキナファソで初めてのYL局 Mlle Eliette(XT2HTE)も同席された。ブルキナ料理(牛、豚、鳥、魚、ご飯類)をご馳走になった。(Poodaさんありがとうございました)



(Poodaさん(XT2HB)と Mlle Elietteさん(XT2HTE))

夕食会のあと、またCEFIGに戻り24時まで運用した。

3月28日、いよいよ帰国の日を迎えた。朝から国立ワガドゥグ大学のYE副学長を訪問し、中野幸紀(JA3VWT)先生が今後のICT分野での大学間国際協力の具体的な取組みを説明をされた。

その後、無線局許認可業務を行っているブルキナファソ電子通信管理局(ARCEP)を訪問し、BAKO局長、OUEDRAOGO周波数担当部長、ROUAMBA法制部長に私たちの活動を説明するとともにお礼を申し上げた。(日本で言えば情報通信行政、郵便事業(監督)などを行っている総務省にあたる)

また、CEFIGに戻り空港に行く、ぎりぎりの時間まで運用した。



(左から、ROUAMBA法制部長、中野先生、OUEDRAOGO周波数担当部長、BAKO局長、Poodaさん、東條さん、北井、尾崎さん、谷村さん、品川さん)

今後の課題として、アマチュア無線をブルキナファソの人たちが自らOn Airできるようにするために例えば今年にはCEFIGの学生さん数人が私たちの運用を見ていたので来年は実際に運用できるようお話をし、マイクを持って運用できるようお手伝いをしたい。(CEFIGには日本でいうクラブ局 XT2CEFIGが今年1月に許可になっている)東條さんが無線機とアンテナ等を現地に置いてありますのでいつでも運用は可能です。(IC706、IC7200、リアアソフHL550FX、アンテナは14~28の5バンドHX52Aと1チカ 21MHz用デルタアップ)

最後に、私としては初めての海外運用となったが何事も新鮮で日本では到底味わえない貴重な機会を与えていただいた

関西学院大学 総合政策学部 中野幸紀教授(JA3VWT)そして東條純一さん(JH3AEF)、学生さんの尾崎さん(JP3CZE)、谷村さん(JP3CXW)、品川さん(JP3DCS)、現地で日夜、ご援助をいただいたブルキナファソアマチュア無線連盟(ARBF)会長 XT2HB Hugolinn Poodaさん、運用する場所を提供していただいた情報処理 経営大学(CEFIG)創設者のSIGOINDA氏、PENDA 教務部長、日本ブルキナファソ友好協会 現地理事 飯田 勉さん、やむなく中止され、日本での後方支援をされた仲田さん(JD3VVO)、大阪国際交流センター ラジオクラブ(JBZAG)のみなさんに心から感謝申し上げます。

また、ブルキナファソ日本大使館のみなさまにたいへんお世話になりました誌上ではございますが御礼申し上げます。